

学校からはじめよう！エコタウンづくり

えどがわエコセンターと共育・協働で環境学習を推進するモデル校

令和5年度  
グリーンプラン推進校  
活動報告書



認定NPO法人 共育・協働の環境づくり

えどがわエコセンター

## 1. グリーンプラン推進校について

グリーンプラン推進校とは、江戸川区の共育・協働の理念にもとづき、学校(幼稚園)における環境学習を推進するモデル校のことです。

えどがわエコセンターから各種情報の他、資材などの経費を提供し、学校における環境学習が充実するよう支援をしています。一年間環境学習に取り組んでいただいた後、活動内容をホームページや報告書などでPRしていきます。

### グリーンプラン推進校の参加メリット

- 環境学習活動費として、各校「5万円」の助成が受けられます。
- えどがわエコセンター「環境学習プログラム」の中から、無料で「出前授業」を受けられます。
- えどがわエコセンターホームページで活動内容を紹介します。
- 他校の環境学習の活動状況等を知ることができます。
- 環境学習に関する様々な情報が得られます。

### 条 件

- 対象は江戸川区立の幼稚園・小学校・中学校です。
- 年度当初に、総合学習の年間計画や出前授業等について伺います。
- 実施報告書・会計報告書の提出や報告会への参加をお願いします。
- えどがわエコセンターへの会員登録をお願いします。

## 2. えどがわエコセンターについて

えどがわエコセンターは、区民・学校・商店街・事業者・行政や環境団体等と連携し、『環境にやさしいまち・エコタウンえどがわ』を目指しています。地球温暖化防止やごみ減量の普及啓発、自然体験や調査活動など、様々な事業を展開しています。

えどがわエコセンターでは、区民や団体と一緒に色々な活動に取り組んでいます。

- 地球温暖化防止・・・脱炭素社会づくりに関するイベント・講座など
- 資源循環・・・フードドライブ事業、おもちゃの病院など
- 自然環境保全・・・河川・海岸の保全、東なぎさクリーン作戦など
- 環境教育・人材育成・・・小中学校出前授業、すくすくスクール放課後環境教育  
エコアクション講座、エコカンパニーえどがわの推進など

### 3. 令和5年度グリーンプラン推進校

#### ◆小学校（22校）

西一之江小学校 大杉東小学校 東小松川小学校 二之江第二小学校 第四葛西小学校  
第五葛西小学校 南葛西第三小学校 新田小学校 宇喜田小学校 清新ふたば小学校 瑞江小学校  
新堀小学校 鹿骨小学校 鹿骨東小学校 松本小学校 篠崎第三小学校 篠崎第四小学校  
東小岩小学校 上小岩第二小学校 上一色南小学校 南小岩小学校 南小岩第二小学校

#### ◆中学校（3校）

松江第二中学校 松江第五中学校 南葛西中学校

## 目 次

### 活 動 報 告

西一之江小学校	・・・	p. 3	鹿骨東小学校	・・・	p.29
大杉東小学校	・・・	p. 5	松本小学校	・・・	p.31
東小松川小学校	・・・	p. 7	篠崎第三小学校	・・・	p.33
二之江第二小学校	・・・	p. 9	篠崎第四小学校	・・・	p.35
第四葛西小学校	・・・	p. 11	東小岩小学校	・・・	p.37
第五葛西小学校	・・・	p. 13	上小岩第二小学校	・・・	p.39
南葛西第三小学校	・・・	p. 15	上一色南小学校	・・・	p.41
新田小学校	・・・	p. 17	南小岩小学校	・・・	p.43
宇喜田小学校	・・・	p. 19	南小岩第二小学校	・・・	p.45
清新ふたば小学校	・・・	p. 21	松江第二中学校	・・・	p.47
瑞江小学校	・・・	p. 23	松江第五中学校	・・・	p.49
新堀小学校	・・・	p. 25	南葛西中学校	・・・	p.51
鹿骨小学校	・・・	p. 27			

学校名	西一之江小学校	対象学年と人数	全学年：671人
活動名	身近な自然に触れよう 大切にしよう/「エコ」へむけての取組み		
指導者	学内指導者：校長 川浦孝彦 他 全教職員 学外支援者：公園ボランティア（4年公園整備）、学校応援団、PTA イクメンジャー（カブトムシの育成）、小松菜農家さん		


※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

- 身近な自然に目を向け、自然を大切にしていこうとする気持ちを養う  
カブトムシの育成・飼育委員会のカメの飼育とプランターづくり  
近隣の公園の整備・各学年の花壇活動と栽培（小松菜・へちま・ゴーヤ・米・芋・プランターの植物栽培）
- ごみを分別し再利用・再活用することや節水などで環境にやさしくできるように生活する。

## 成果

- 3年生と飼育委員の児童を中心に、カブトムシの世話をを行った。年度初めに、学校応援団、PTA イクメンジャーと共に、カブトムシ小屋の整備を行い、115匹の幼虫が育っていることを確認した。例年、3年生が一人1匹の幼虫の飼育を行うが、今年度は学級ごとに飼育を行った。その活動の中で、カブトムシ小屋から出る糞や腐葉土を肥料として学年の花壇の土や飼育委員の育てるプランター土にすきこんだ。糞や腐葉土は、野菜や花を育てるための大切な肥料として活用できること、自然の様々な事象は循環していることを、活動を通して学ぶことができた。飼育委員はカメの飼育の餌やりを低学年の児童と一緒にいき、カメ池の清掃やプランターの花の育成を行った。
- 各学年とも、学年花壇で植物を育て、身近な自然に触れることができた。3年生では、小松菜農家を訪ね、小松菜の育て方を学習するとともに、花壇で小松菜の種をまき育てた。4年生は6月と12月に近隣の公園に出かけ、公園の花壇の花の苗の植替えを行った。近隣に広がる農家に目を向け、地域のボランティアの方と一緒に行動し、地域の自然へも目を向けられた。5年生は、えどがわエコセンターの環境学習プログラムを行った。地球温暖化防止のために自分たちが日ごろから取り組めることについて考えることができ、身近な自然の大切さに気付くことができた。
- エコ委員会の児童と用務主事を中心に、ごみの分別の徹底を行った。ダンボールの細かいものはテープなどを取り外して、再生可能な状態にすることを全校で共通理解して行うことができた。

## 感想・課題等

- 学校内の自然から地域の自然環境へ目が向くようになり、大切にしていこうという気持ちが育った。また、毎年継続している活動については、引き継いでいきたいという気持ちが継続し、持続可能な社会に向けての意識を高めることができた。活動の時期が限定されてきがちであるので、継続できるよう見直していく。
- 児童が、ごみの分別や水を大切に使うことなどの日々の取り組みを継続することで、環境にやさしい生活を意識していくことができてきている。更に、児童の中に定着できるよう工夫を重ねていく。

カブトムシ小屋の整備：越冬したカブトムシの幼虫をカブトムシ小屋の土の中から掘り出し、飼育のケースに移す作業を行う。その時、カブトムシの糞や土をふるいにかけて糞と土を分けて、肥料になるところは、学級花壇に入れ込んで、植物を育てている。



小松菜農家の見学：3年生が小松菜農家を訪ね、ハウスの中の土や農機具の様子を見学し、実際に触って小松菜栽培の実際を知ることができた。

松江公園の苗の植替え：4年生が近隣の松江公園で近隣のボランティアの方や地域の方々と花壇の花の苗の植替えを行った。






環境教育プログラム：5年生が6月30日（金）に実施。地球温暖化防止のために日ごろから取り組めることについて考えることができた。

5・6年生のエコ委員会の児童が、清掃時にごみを収集する場所に立ち分別の確認をすることやエコパトロール・ポスターの掲示などで意識が高まっている。



学校名	大杉東小学校	対象学年と人数	米作り（第5学年54名） 花を育てる活動（全児童396名）
活動名	米作りと花を育てる活動		
指導者	学内指導者： 高橋真校長 南出浩主幹教諭 鶴町利恵主任教諭		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

- ・米作りの体験（田植え、稲の観察など）を通して、自分の生活の一部として関わりをもつ「米」について幅広く知ること、食文化や食生活への関心や環境への意識を高めるとともに、米作りに関わる人々の苦勞や願いを自分のこととして考えられるようにする。
- ・自然に親しみを持ち、命の大切さを学び、花の栽培を通じて育てる楽しさを味わいながら豊かな心を育む。

## 成果








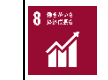









- ・田植えや稲の観察、稲刈りなどの米作りの体験を通して、米が食べられるようになるまでには、時間をかけて丁寧に多くの作業が伴うことを実感することができた。
- ・たて割り班で班ごとのプランターを作って種まきを行い、班で花を育てることで、自然に親しみを持ち、花を育てる楽しさを味わいながら、栽培をすることができた。

## 感想・課題等

- ・楽しみながら体験活動（田植え、稲の観察、稲刈りなど）を行い、米のよさや大切さ、米作りに関わる人々の苦勞や願いなどを考えることができた。また、米ができるまでの苦勞を知り、普段から食べ物を大切にせず残さず食べようとする児童が増えてきた。
- ・たて割り班でオリジナルのプランターを描き他学年と種まきを行うことで、意欲的に花を育てるきっかけとなった。
- ・積極的に花の水やりを行う児童がいる一方で、人任せになってしまう班もあった。また、夏は気温が40℃に迫る日が続くなど、花を咲かせるまで成長させることが難しい種類の花もあった。



学校名	東小松川小学校	対象学年と人数	全学年：621人
活動名	はすに思いをこめて（蓮植え・蓮掘り活動）		
指導者	学内指導者：校長 高木 伊織 他 全教職員 学外支援者：尾崎 守男 様（蓮田を守る会）、PTA、学校応援団		

								
	 ○	 ○			 ○			

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

- 蓮の植え付けの様子を観察したり成長の過程を記録したりして蓮について関心をもつ。
- 蓮の収穫の様子や成長を観察したり記録したりして蓮について関心を高める。
- 蓮田を継承する地域の方々と交流を図り、地域への愛着と感謝の気持ちを育てる。

## 成果

- 児童が自分の住んでいる地域に目を向け、郷土の歴史・伝統文化に触れ、蓮を育て観賞することで、郷土に対する誇りと地域の一員としての自覚を高めることができた。
- 地域の人材資源を活用して保護者、地域、教職員が一体となった活動を展開することができた。
- 蓮田を守る会会長等を講師に招き、出前授業を通して児童一人一人が自分たちの学校にある蓮田について理解し、愛着をもち、環境保全活動等への実践的態度を養うことができた。自然を守ることの大切さを改めて理解し、総合的な学習の時間等の学習に生かすことができた。

## 感想・課題等

### 【児童の感想】

- 地域の方、4年生代表児童、保護者の方々が協力して蓮を掘っていました。顔が泥だらけになっていたり、ぬかるみにはまって足を出すことができなかつたりして大変そうでした。給食に出た蓮根はとてもおいしく、東小松川小学校ならではでした。これからも、地域の方と一緒に学校の伝統が引き継がれていくといいなと思いました。
- 重い土の中で何時間も掘り続けたことで食べられる蓮根であることを実感しました。蓮掘りを何回見ても、植物・食べ物がつくられる過程は初めて見た時のように感動します。
- 給食に出た蓮根を見て、これはいろいろな人々の苦勞で作られていることを思い、給食を残さず食べ物を無駄にしないという決心がつきました。いつもこのことを考えたいです。

### 【課題】

- 児童が蓮の生育途中の世話をする時間をもつことができず、地域の方や用務主事に任せることが多くなってしまった。
- 蓮植えや蓮掘りの様子、蓮の成長過程を学校ホームページに積極的に紹介し、本校の特色のある教育活動の様子を広く周知していく必要がある。



【蓮植えの様子】



【蓮植え見学の様子】



【蓮の花（7月）】



【4年生代表児童による蓮掘りの様子】



【収穫した蓮（一部）】










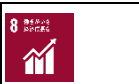









【蓮田だよりの作成（環境学習）】



【蓮のはさみあげ給食（人気No.1）】



学校名	二之江第二小学校	対象学年と人数	全学年364名
活動名	「みんなで守ろう環境計画 地球の未来は二之江から」		
指導者	学内指導者：全教員 学外支援者：蓮田愛育会		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

- 各学年における栽培活動を通して、CO2削減、室内温度の上昇防止、リサイクル活動など身近な環境問題やその改善に関心をもたせる。
- 校内における蓮田や校内花壇を中心とした栽培活動や金魚等の生き物観察を通して、自然を大切にしようとする意識を高める。

## 成果

- 地域の方と連携して、校内にある蓮田で蓮を栽培することで、地域の産業への興味関心を高めるとともに郷土愛を深めることができた。
- 学年園や一人一人の鉢、蓮田等での植物の栽培や、金魚やウサギ、ヤゴなどの生き物を飼育・観察する活動を通して、児童が動植物に愛着をもち、自然を大切にしようとする意識をもつことができた。
- 環境問題についての調べ学習やグリーンネットを利用したゴーヤとヘチマの栽培を通し、持続可能な社会への関心を高めた。
- 牛乳パックのリサイクルや校内で収穫したレンコンやサツマイモを用いた給食、マヨネーズ教室などを通し、食材の大切さやごみの削減に対する意識向上につながった。

## 感想・課題等

- 蓮田愛育会の方に来校いただき、蓮の植え方・育て方等を教えていただいたことで、児童はもちろん、教師も大変勉強になった。今後も、地域の方と連携して環境学習を進めていきたい。
- 猛暑により、蓮田の草取り活動が短縮されたり、学年園で栽培している植物がうまく育たなかったりした。学習活動に支障がないよう、栽培する植物や植える時期等を検討していきたい。
- 各学年で環境教育を行う時期と内容を把握し、予算をよりよく生かせるようにしていきたい。
- 校内掲示物の作成や学校のホームページ等で紹介を行うことで、さらなる活動の充実や活動意欲の向上につながると考える。理科室前や職員室前の掲示板の活用、ホームページへの掲載等、計画を立てて行っていきたい。

## ＜校内の緑化＞



1、2年生が1人1鉢花の苗を植えたり、5年生が生け花に挑戦したりと、50周年を迎えた校内を植物で彩りました。4年生の理科・総合でのグリーンカーテンでは、子供たちが調べ学習を通して環境問題に目を向けるとともに、動植物を大切にしていこうという意識につながりました。

## ＜蓮の栽培＞



地域の「蓮田愛育会」の方々と3年生が、校内にある蓮田で蓮の栽培を行いました。蓮についての調べ学習や、蓮の葉を用いた図工の作品作りも行いました。収穫後は給食で食し、郷土愛を深めました。

学校名	第四葛西小学校	対象学年と人数	全学年：719人 グリーン委員会：24人
活動名	グリーンアドベンチャー		
指導者	学内指導者：教職員全員		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

- 緑豊かな第四葛西小学校の環境を生かし、樹木や草花に親しむ。
- 活動の中で様々な感覚に働きかけることで、豊かな感性を養う。
- 異年齢集団による活動を通して、相手への思いやりの気持ちを養う。

## 成果

- 1年間、自分の担当の木を観察したりクイズを作ったりしたことで、担当の木の知識や愛着をもつことができた。
- 縦割り班で活動することで、上級生が今まで学んだことを下級生に伝えている姿が見られた。
- グリーンドクター・マスター検定会を行うことで、校内の木々について積極的に学ぶことができた。
- グリーン委員会の児童が、金魚とメダカの世話をしたり、全校児童に呼び掛けるポスターを作成したりすることで、全校児童が校内の生き物に関わろうとする意識を高めることができた。

## 感想・課題等

- 児童がそれぞれの担当の木を1年間観察したり、クイズを作ったりしたことで、一人一人が四小の木々に興味をもつことができた。
- 縦割り班で活動したことで、上級生が下級生に優しくかかわる機会を得ることができた。また、下級生も上級生に関わることでたくさんのことを教わることができた。
- グリーン委員会では、昨年度まであった飼育委員の仕事を引き継ぎ、生き物の世話をすることを通して、自分たちで四小の環境をよりよくしようとする態度を育てることができた。

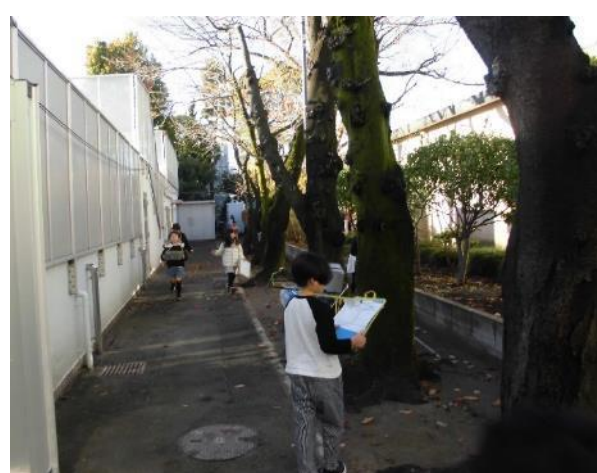
### 課題

- 木の成育が悪化するなどの不測の事態が生じた際に、継続観察の難しさがあった。
- グリーン委員会（今年度発足）の活動内容の充実を図ること。

【グリーンアドベンチャーの活動】



【グリーンドクター・マスター検定会】



学校名	第五葛西小学校	対象学年と人数	全学年
活動名	五葛西みどりいっぱい活動		
指導者	学内指導者：1～6年担任 栽培委員会担当教諭 学外支援者：えどがわエコセンター講師		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

- 小学校の花壇を整備し、花を植えることで、校内外の人々に憩いと潤いを与える。
- グリーンカーテンを作ることで、植物と地球温暖化の関係を考える機会を作る。
- 花壇にミニ農園を作って農作物を栽培し、できた作物を収穫する喜びを体験する。
- 収穫した作物を給食のサラダに加えるなど、自然の恵みに感謝しながら会食など活用する機会をもつ。

## 成果

- 児童が登下校の際に通過する校庭の花壇では、栽培委員会の児童が中心となり、ゴーヤの緑のカーテンの栽培をはじめ、様々な野菜・草花の栽培を続けた。また、1年生の朝顔、2年生のミニトマト・さつまいも、3年生の小松菜、4年生のヘチマ・ゴーヤ、5年生の米、6年生のジャガイモなど、各学年においても、植物の世話や観察を通して、植物の成長や花や実の変化に興味・関心をもたせることができた。
- 緑のカーテンや植物の栽培を進めることで、小さなことでも継続することが必要であること、多くの人が集まれば大きな力になること、そうした地道な努力が地球温暖化を防ぐことにつながることに気付くことができた。

## 感想・課題等

- 今年度は、高温・少雨の天気が続き、夏の水やりが大変で、児童、教員共に、植物を枯らさないように世話をする努力が必要だった。
- 栽培委員会の児童は、学期ごとに育てる野菜や花を考え、当番を決めて、毎日水やりや観察を行った。こうした児童主体の活動により、学校緑化の意識が高まることにつながった。また、高学年が花壇の世話をしていると、低学年の児童や学童・すくすくスクールに通う児童がその様子を見ていて話しかけたり、自主的に手伝いをしたりする様子が多く見られた。
- 6月に植えたラディッシュは成長が早く、子供たちもよく観察していた。栄養士に相談して、給食のサラダのメニューに加えてもらい、全校児童・職員で食することができた。
- えどがわエコセンター講師の方にご指導いただいたグリーンカーテンは、猛暑により校舎を覆いつくすまでにはならなかったが、5月から10月までの長きにわたって校舎の窓・壁に当たる強い日差しを遮ってくれた。
- 高い気温のためか、サツマイモやカボチャなどの野菜のつるや葉が伸びすぎて実がつかず、収穫につながらなかったものもあった。



飼育委員会の子どもによる土おこし



さつまいも花壇(2年生)



トマトは子供の背丈より高くなり、多くの収穫があった。



鈴なりのラディッシュ



小松菜畑(3年生)



収穫したラディッシュ



給食のラディッシュのサラダ





ゴーヤの緑のカーテン(4年生)



夏、ゴーヤに加えてヒマワリも栽培

学校名	南葛西第三小学校	対象学年と人数	4年(94名)5年(80名)
活動名	海洋教育～干潟の生き物観察～		
指導者	学内指導者：水原・米田・中川・戸邊・宮脇・矢口 学外支援者：吉田さん・大原さん・工藤さん		

			 ○					
				 ○				

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

葛西臨海・海浜公園の干潟に多くの生物が生息していることを実感し、児童に干潟や東京湾の魅力を知ると同時に、江戸川区の自然の豊かさを再発見してもらう。

## 成果

- ・多くの児童が自然について関心をもつことができた。
- ・実際に生き物をたくさん捕まえることによって、身近にこのような環境があることに気が付くことができ、今後につなげることができた。
- ・生き物の名前や特徴を詳しく知ることができた。

## 感想・課題等

実際に生き物を捕まえ、観察することで児童が意欲的に楽しく参加することができ本当に良い機会でした。それぞれの生き物の特徴や、名前など、分からないことを質問すると全部的確に教えてくださり、子供たちもとても満足していました。このような貴重な生き物たちが住んでいる近くで見られることを知り、すごく身近に感じることができたかと思います。

また、ラムサール条約の話聞き、葛西海浜公園のすごさも肌で感じることもできました。

天気も非常によく、とても観察日和でした。





学校名	新田小学校	対象学年と人数	全学年
活動名	ShinDenGoals～私たちがつくる未来～		
指導者	学内指導者： 全職員 学外支援者： 学校応援団		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

学校の自然について学び、関心を持ち、意識を高める

## 成果

- スタディーフェスティバル（学習発表会）では、各学年でSDGsの目標を設定し、発表を行うことができました。
- 子どもたちは、中休みや昼休みに、花を植えて水やり等の世話をすることで、自然環境への尊びそして大切にすの意識が芽生えました。
- 花の植え付け栽培については学校だけでなく、すすくスクールや地域の方々の協力をいただけるようになりました。

## 感想・課題等

新田小学校では、SDGsをShinDen（新田）Goalsと掲げ、現在、各学年において各目標を設定して活動しています。そこで、学校には様々な木々があり、コースを巡りながら樹木の名前を当てていくグリーンアドベンチャーという行事があります。そこでは、樹木の知識を学びながら緑を親しんでおります。今回、花の植え付け栽培をすることにより、自然環境が気候の変化で移り変わり循環していくことを、活動を通して学ぶことが出来ました。当初は、環境整備委員会が中心となり行っていましたが、暫くすると、児童が自然と集まり自主的に行うようになりました。さらに、すすくスクールや地域の方々の参加もあり、地域一体の活動となりました。課題として、このプロセスを、さらに児童主体にして、一過性のものではなく継続性のある活動にしていくことであります。

私たちは、このような与えられた体験と機会に対して深く感謝しており、新年度の活動でもこれらの取り組みを継続していきます。



スタディーフェスティバル



学校応援団の協力での花植え活動



環境整備委員会の活動



グリーンアドベンチャーの活動



すくすくスクールとともに、活動しました



花壇に全員で花を植えました



地域の方々から育成方法を教わりました

学校名	宇喜田小学校	対象学年と人数	3、4年162人 5、6年栽培委員会20人
活動名	宇喜田小「緑と花いっぱい为学校」		
指導者	学内指導者：西山純一 綿貫桃花 奥村彰子 仲矢光憲 田島昂典 渡邊陽音 根岸鈴己 橋本英明		


※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

- 宇喜田小学校の校内に緑や花を増やす活動を通して、植物保護や保全に対する心情を高め、植物と身近に触れ合うことの良さの意識を高める。

## 成果

- 本校の3年生と4年生が「グリーンカーテン」に取り組み、水やりをして大切に育てることができた。夏休みになるとつるがさらに伸び出し、教室内に日陰ができることで植物が環境に役立っていることを知ることができた。
- 秋になると、校内に植える苗づくりを1・2年生が行った。その育った苗を5、6年生の栽培委員会が、花壇やプランターに植え直すことで、植物の種類を知ったり、育て方を学んだりしながら、植物に対する知識や植物を大切にすることにつながった。

## 感想・課題等

○成果 ●課題

(グリーンカーテン)

- 校内の緑を増やす活動を通して、植物を大切にすることの気持ちの高まりや地球温暖化について考える等、SDGsの取り組みを学ぶ良い機会となった。
- ゴーヤやヘチマの観察を続けることで、葉の大きさやつるの伸び方が分かり、大切に育てようとする気持ちが出てきた。
- 今年も暑い日が続き、水やりを続けてきたが、途中から育ちが鈍くなりネット一面にカーテンを育てることができないクラスもあった。

(種から苗を育てる)

- ポットに種をまき、苗を育てる活動を行った。芽が出て育つまでの様子や水やりのタイミングを調べながら、意欲的に育てる気持ちが高まった。
- 種の種類や具合によっては、芽が出なかったり、害虫と葉の病気により大きく育たなかったりした苗もでてきたので、何度も種をまくようになってしまった。

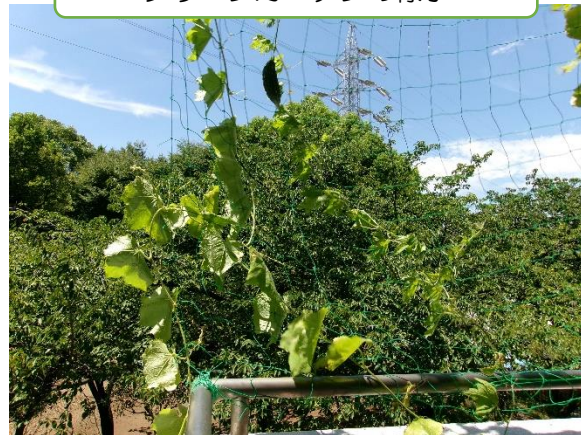
(花壇の世話)

- 栽培委員会の児童が、毎日休み時間に水やりや草むしりを担当した。その中で、花の名前を覚えたり、育て方を調べたりと楽しく活動することができた。

グリーンカーテンの植え付け



グリーンカーテンの様子



教室のバルコニーに、ゴーヤやヘチマの苗を植えてグリーンカーテンを育てました。

苗を育てる



苗の様子



プランターへの水やり



校内のテラスに、ピオラやマリーゴールドなどの種をポットから育て、プランターに植え替えて世話をしました。

花壇の看板



花壇の水やり



花壇の様子



花壇の花は、季節ごとに植え替えや水やりを栽培委員会が行った。

学校名	清新ふたば小学校	対象学年と人数	3年生：92人
活動名	「ふたば小松菜プロジェクト！」		
指導者	学内指導者：中島千晴、小川智也、栗木祐介 学外支援者：小原農園		

	○	○						

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

自分たちで小松菜を育てたり、江戸川区で小松菜づくりに取り組む方々と関わったりする探究的な活動を通して、小松菜をもっと多くの人に食べてほしいと願い活動する人々の思いに気づき、自分たちも江戸川区清新町に小松菜を広めていくためにできる活動をしよという地域への愛着をもつ。また、地域の環境にも目を向け、よりよい環境の中で生活していけるよう考えることができる。

## 成果

- ・小松菜を育てている農家の方の取り組みを調べたり、栽培活動を行ったりしたことを通して、地域の環境に関心をもつことができた。
- ・自ら探究活動に取り組み、農家の方、保護者の方、友達の協力があって小松菜づくりを成功させることができたから、これからも地域の人のためにできる活動をしていきたいという思いをもつことができた。

## 感想・課題等

- ・小松菜の栽培をし、うまく育たなかったことから始まり、栽培方法や地域の環境について調べることができた。また、実際に栽培を行っている農家の方のお話を聞いて、より意欲をもって活動することができた。
- ・身近な環境について関心をもつことができたことで、次年度以降、また違った面から環境についての問題を捉え、主体的に問題解決に向けた学習ができるようになってほしい。
- ・様々な環境問題を自分事と捉えさせ、自分の未来と切っても切れない関係だということ認識させたい。



「大きく育つには…」



毎日水やり



こまつなくん



大きく育ちました

学校名	瑞江小学校	対象学年と人数	1年生：68名 飼育委員会（5～6年）
活動名	どんぐりでおもちゃをつくろう 学校の生き物の飼育環境を整えよう		
指導者	学内指導者：坂口奈美 毛利優希 吉田拓司 佐々木洪和 学外支援者：エコセンター 中嶋様 泉様		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

- ・おもちゃ作りを通してどんぐりの特徴を知り、自然に対する関心を高める。
- ・観察池や飼育小屋の環境整備をすることを通して生き物に対しての慈愛の精神を養う。

## 成果

- ・どんぐりやまつぼっくりの特徴や種類を丁寧に教えていただいたことで自然への関心を高めることができた。
- ・どんぐりを使ったアクセサリーや小物づくりを通して自然を身近に感じる事ができた。
- ・飼育委員会で、観察池の掃除をするためにたもを購入することができた。その結果、観察池の環境改善につなげることができた。
- ・飼育小屋の環境改善を図りながら生き物の世話を最後まですることができた。

## 感想・課題等

- ・外部指導員の方々が事前準備をしてくださったおかげで子供たちは楽しく自然に対する興味関心が高まった。今後も外部指導員の方々と連携を図っていきたい。
- ・観察池の環境整備を行ったことで興味をもって生き物の観察をする児童の姿が多くなった。飼育委員の児童が他学年と関われる場となった。
- ・継続的に観察池の環境改善を図っているが、取り除いた落ち葉や水草の活用ができていないので肥料にするなどの過程を考えていきたい。
- ・プランターに季節ごとに花を植えた。児童に関心に向けられるように計画していきたい。





学校名	新堀小学校	対象学年と人数	保健環境委員会
活動名	新堀小グリーンプラン		
指導者	学内指導者：保健環境委員担当教員 学外支援者：学校応援団・新堀小グリーンプラン（保健環境委員花植え活動）		

			 ○					
					 ○			

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

- 身の回りにある自然に触れ、自然の素晴らしさを感じ、大切に作る心を育てる。
- 校内にある銅像公園の整備をし、四季折々の草花を鑑賞してもらう。

## 成果

- 銅像公園を開こう！  
今まで立ち入りが禁止されていた銅像公園を開放するにあたり、たくさんのアジサイの苗を植えた。根付けば強いアジサイは、来年の梅雨時期にたくさんの花を咲かせる予定である。
- 花と緑の新堀小へ！  
昨年に引き続き、花と緑いっぱいの新堀小にするために、花壇の花植え活動を行った。休み時間には委員会の児童を中心に草花の水あげなどをし、新堀小の子供たちにとって、花や緑が身近に感じられ、植物に親しむ良い機会となった。

## 感想・課題等

○今まで一年草しか植えたことのない保健環境委員会の子供たちが、初めて低木であるアジサイの苗を植えた。「アジサイは水が大好き！根がはるまでは、しっかり水をあげなければならない！！」という教員の話をしっかり聞き、すぐに地面が乾いてしまう夏場は、一日に何度も水をまきに行く姿が見られた。その後は、葉が落ちてしまった後に新芽が出る様子などを見て、草花の「次の年への準備」を目の当たりにし、自然環境への意識が高まったと感じる。

●昨年度も課題であった、「委員会の時間内にできることが限られている」という課題は、今年度もあがった。来年度は計画的に土の入れ替えや雑草抜きなど、植物を育てるうえで必要な活動も積極的に取り入れ、より環境への意識を高めたい。

○銅像公園を開こう！



BEFOR  
→ AFTER

ひと苗ひと苗、間隔を空けて  
しっかり植えました。



立ち入り禁止だったために、あまり整備し  
ていなかった銅像公園。たくさんのアジサイ  
の苗で、こんなに華やかになりました！  
来年の梅雨時期には、きっと雨で憂鬱な気  
持ちを吹き飛ばしてくれることでしょう。

雨が上がり暑くなると、  
急に雑草が生えてきます。  
今日の雑草は、みんなでビ  
ニール袋2袋になりまし  
た！！



○花と緑の新堀小へ！



いくつかある花壇を、保健環境委員会の児  
童とすすくすくスクールに通う児童で、半分ず  
つ植えました。保護者の方もお手伝いに来て  
くださいました！



白いノースポールとブルーのピオラ  
の素敵な花壇が出来上がりました。



学校名	鹿骨小学校	対象学年と人数	3年生 計23名
活動名	小松菜を育ててみよう		
指導者	学内指導者：河合 駿佑 学外支援者：進藤 康之 越塚 浩道		


※該当するSDGsの項目に「O」を記入

## 目標

○小松菜を栽培したり、収穫したりする体験を通して、食に対する関心や陸の資源への知識を深めるとともに、江戸川区への愛着を高める。

## 成果

- 給食や家庭での食卓にあがる食材を意識するようになった。
- 種のまき方や水のやり方を友達と工夫しながら取り組んでいた。
- 畑を整備したり、お世話をしたりすることで、栽培することの苦労や達成感を感じ、農家の方への感謝の気持ちが高まった。

## 感想・課題等

### 【児童の感想】

- 種がとても小さくてびっくりしたが、ちゃんと芽が出るんだなとびっくりした。
- 自分たちが育てている小松菜が大きくなっていくのを見ると、うれしくなった。
- 収穫では、葉っぱが大きくて、大変だったが、ちゃんと育ってくれてよかったと思った。
- 植物にも命があり、命を大切にしようと思った。

### 【課題等】

- 屋上のため、生育途中のお世話をすることがなかなか持てず、地域の方に任せたままになってしまった。
- 打合せはしっかりと行えているが、実際の畑の準備から生育、収穫の作業まで、地域の方にお任せになっており、負担をかけている面がある。
- 種まきや収穫など、活動の様子を広く知っていただけるように、区や学校のホームページ等で積極的に紹介していけると、さらなる活動の充実や活動意欲の向上につながると思う。



雑草がいっぱい・・・みんなの力で、まずは草むしりをがんばろう～！！

子供たちの力だけでは難しく、地域の方々の力で、見事な畑になりました！




















みんなで種まき！！ 直径1mm・・・こんなに小さな種なんだね！！



葉っぱがいっぱい！！大きくなったね！！  
さあ、みんなで収穫しよう！！！！

学校名	鹿骨東小学校	対象学年と人数	全校
活動名	自然と親しまおう		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：グリーンボランティア（栽培活動支援12名） 子ども未来館の皆様4名		

								
			 ○	 ○	 ○			

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

- ・学校や地域の自然の観察などを通して、身近な自然に関心をもち、自然と親しみ関わらう子どもを育てる。
- ・プールにおいて、「ヤゴトープ」を設置しヤゴと親しむ。自然の命の尊さを尊重できる子どもを育てる。
- ・5年生は、田植えと稲刈りを行い米を育てることの大切さを考える。
- ・3R活動を学校全体で取り組む。

## 成果

- ・4年生は、年2回篠崎公園にて自然観察を行った。外部講師を招いて、篠崎公園に生えている樹木の種類や生き物について説明を受けた。自然ビンゴを行い、自然に関心をもち、親しむことができた。
- ・校庭に柑橘系の樹木苗を植え、アゲハチョウを呼び込む計画である。
- ・3年生は、5月に昨年度設置したヤゴトープに住み着いたヤゴを採集した。捕まえたヤゴは教室で大切に育て、トンボになり羽ばたいていった。2年生は、9月にヤゴトープを設置した。子ども未来館の外部講師をお招きし、ヤゴについての説明を受けながら、ヤゴがやってくるのを楽しみに待っている。
- ・5年生は5月に、総合的な学習として地域のグリーンボランティアをお招きし田植えを行った。9月には稲刈りを行い、収穫の喜びを味わうことができた。収穫したお米は、3学期の調理実習で食べる予定である。
- ・1学期と2学期に1回ずつ「もったいない運動」を給食委員会を中心に行った。給食の残飯を減らす運動を1週間実施した。また、総合的な学習で6年生はSDGsについて調べ学習を行った。自分たちでできる取り組みとして、ごみの分別方法や節電、節水の大切さを伝えるポスターを作り、校内に掲示した。全校児童に、限りある資源を大切にしようという意識が芽生えている。

## 感想・課題

- ・児童が主体となって活動を行うことができた。特に高学年の児童がすすんで取り組んでいると、それを見た低・中学年の児童にも波及していった。
- ・田植えやヤゴトープは、管理が大変であった。どちらも命あるものであるため、教員やボランティアが協力して管理に取り組む必要があると感じた。

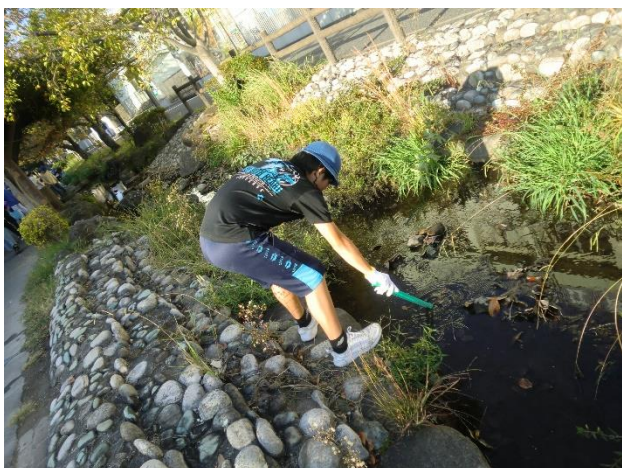
ヤゴトープと浮羽化したトンボ



田植えと稲刈り



6年生による浸水緑道の掃除



学校名	松本小学校	対象学年と人数	全学年：216名
活動名	松っ子実のなる木大作戦		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：学校応援団二村寿三様 岸野正義様 斎藤澄江様、小松菜農家浅岡様		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

○本校の特色である「実のなる木」を育てることで、身の回りの自然や食べ物に対して関心をもち、食べ物や生産者など自分たちの生活を支えてくれた人への感謝の気持ちをもつ。

## 成果

- 1年生は、みかんの木などの「あきのもの」のマップ作りを行った。学校の特色を生かした生活科の学習ができた。また、児童の植物に関する興味・関心が高まった。
- 2年生は、さつまいもの収穫、リース作り、よつばとつばきの誕生会の企画と実施を行った。動植物を大切にしようとする心が育った。
- 3年生は、1学期と2学期に小松菜栽培をした。また、2学期に小松菜農家の畑の見学を行った。江戸川区の特産品である小松菜を育てることで、地域愛を育むことや江戸川区の歴史を知ることができた。
- 4年生は、梨の受粉、摘果、袋がけ、収穫を行った。果物の育成から収穫までの過程を知ることができた。
- 5年生は、学校応援団の方の田んぼで苗植え、収穫を行った。学習発表会で稲に関して発表を行い、稲の成長過程や品種等学びを深めることができた。
- 6年生は、さくらんぼの収穫を行った。カラスが食べてしまうこともあり、植物を育てる大変さを学んだ。

## 感想・課題等

実のなる木を育て、収穫することで、身の回りの自然や食べ物に対して興味・関心をもつことができた。また、学外支援者をお願いするだけでなく、自分たちで調べる学習や発表を行い、主体的に関わることで、多くのことを学ぶことができた。

今後、次の学年に引き継ぎをしていくとともに、より児童が主体的に取り組める活動を増やしていくことが必要である。また、学校公開日に保護者にも一緒に体験してもらおう等本校のよさを広く伝えていくことも課題である。





1年 みかん狩り



2年 リース作り



3年 小松菜の植え



4年 梨の観察



5年 稲刈り



6年 さくらんぼ狩り

学校名	篠崎第三小学校	対象学年と人数	5年生 91名
活動名	お米博士になろう！（総合的な学習の時間）		
指導者	学内指導者：5年生担任、環境委員会担当、特別支援教室専門員 学外支援者：鶴岡市東京事務所		


※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

- 学校4階にある田んぼを活用した米作りの体験を通して、米について幅広く調べ、米のよさや大切さを学び、米作りに携わる人々の工夫や努力について知る。
- 田んぼと自然環境の関わりに興味をもち、SDGsの取り組みや地球環境に関する関心を高める。

## 成果

- 田おこし、田植え、観察、稲刈り、脱穀、粳摺り、精米等一連の作業を、機械を使わず、自分たちの力で行ったことで、米作りは多くの手間がかかることを知り、米を大切に育てようという気持ちをもつことができた。
- 米作りと自然環境の関りについて調べ、田んぼに生息する生き物や絶滅危惧種、病害虫について学ぶことができた。
- 学習発表会では、「お米博士になろう！」を発表テーマとし、活動を基に米について調べたことや学んだことを全校児童や保護者、地域の方に伝えることができた。
- 鶴岡市の方から実際の米作りの仕方を学び、交流することができた。

## 感想・課題等

- 校舎4階という特別な環境での米作りであるが、5年生の教室からすぐに田んぼを観察することができるため、児童が生活の中の一部として自然に関りながら活動することができた。年間計画を基に校内での活動が教員や児童にも定着してきているので、活動を継続して子供たちが豊かな自然環境に触れられるようにしていきたい。
- 田んぼの土づくりや水管理が困難であることや、鳥害対策のネット、暴風雨対策など特別な対策が必要な環境のため、通常の生産工程とは異なる管理が必要だった。その都度、環境委員会の担当や子供たちと共に対策を考えて米作りを実施することができた。
- 田んぼの生き物調査を実施する予定であったが、外部からの生き物が入ってこない環境なため、トンボ以外の生き物の生息を確認することができなかった。今後、田んぼの生き物の様子と合わせて、学校前の篠田堀親水緑道の環境や生態についても学ぶ機会を増やし、地域の自然や環境を守っていく取り組みをしていく必要がある。
- ゲストティーチャーとして鶴岡市の方を招き、田植え指導の他、友好都市である鶴岡市のことや歴史等について学ぶことができた。人的交流や食育活動を通して地域の環境や都市と農村の違いについて知り、江戸川区の自然や環境についての理解を深めることができた。



土づくり



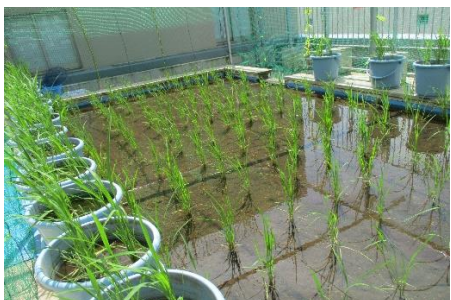
田おこし・代掻き



ゲストティーチャー（鶴岡市）



田植え



病害虫・鳥獣対策



稲刈り



脱穀作業



粃摺り作業



学習発表会（篠三米作り）



学習発表会（水田の生き物の紹介）

学校名	篠崎第四小学校	対象学年と人数	全校児童
活動名	メダカの命から考えよう		
指導者	学内指導者：横手竜一教諭 金井典子主任教諭 楠目裕規主任教諭 井口拓教諭 山崎達也教諭 渡邊有佳子教諭		


※該当するSDGsの項目に「O」を記入

## 目標

- ・自然に関して興味関心をもち、命を大切にしようとする心情を育む。
- ・夏になると池の水温が年々上がることから、気温も上昇していることに気づき、地球温暖化などの問題に対して自分たちにできることを考える。

## 成果

- ・子供たちがメダカに興味をもち、教室で飼育したり、授業で活用したりすることができた。生き物を飼育する難しさを理解し、命を大切にしていこうとする心情を育むことができた。
- ・園芸委員会では池の水温が上がることから、気温も上がることを連想し、ヘチマでグリーンカーテンを作ろうという主体的な活動が生まれた。
- ・園芸委員会が育てたヘチマを4・5・6年生の学習で活用し、体験的な学習をすることができた。
- ・本校に生息していたカダヤシとメダカを比較することで在来種と外来種の存在を知り、身近な場所から環境問題について考えることができた。

## 感想・課題等

### 感想

- ・池ができたことによって委員会活動や日々の授業など様々な活動につなげることができた。また、いくつかの学級で生き物を育てる活動につながり、自然を愛護する心情を学校全体で育むことができた。
- ・ヘチマやメダカの卵など身近にある物を授業で活用することによって、児童が自ら課題発見をしたり、生き物に興味・関心をもちたりすることができた。それが主体的に学ぼうとする姿勢につながり、体験的な学習を展開することができた。

### 課題

- ・ヘチマなどの植物は1年で終わってしまうことから、継続させる工夫が大切だと感じた。枯れたら終わりではなく、種をとり、来年また植えるなど各委員会活動や学年間で持続していけるように指導をしていく必要がある。

活動の  
様子



池の  
様子



学校名	東小岩小学校	対象学年と人数	3年61名・4年57名
活動名	農園活動、「みどりの小道」環境日記		
指導者	学内指導者：3・4年担任 学外支援者：学校応援団		


※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

- 農園活動を通して、自然の営みを学習し、地球環境に関する理解を深める。
- 環境問題に関する日記を記入することをきっかけとして、日頃から身近な地球環境について考えるとともに、身のまわりで何ができるか話し合う。

## 成果

- 毎年、野菜づくりを通して自然の営みを学習できる貴重な場所となっている「ふき農園」。この学習には、地域の方が「学校応援団」として協力してくださっている。今年度は5月に教職員と学校応援団の方々に畝作りを行い、その後、児童がジャガイモの種イモ植えと、大根・大豆の種まきを行った。学校応援団の方々が水やりなどのお世話を続けてくださったお陰で、7月には大根、9月にはジャガイモ、大豆の収穫を行うことができた。また、11月上旬からは、小松菜の栽培にも挑戦している。児童は種まき、間引きや草むしり、収穫の活動を通して、植物の生長や自然環境について興味・関心をもつことができた。
- 1日の生活を振り返ることで、家庭や学校で地球環境について取り組めることの多さに気付いた児童が多かった。また、節電や節水の取り組みを日記に記録することで、地球環境の改善につながっていることを実感することができた。

## 感想・課題等

### 【感想】

- 大根がこんなに大きく成長するなんて、びっくりした。
- 大きい大根や小さい大根ができるのは、どうしてだろうと思った。
- ジャガイモがたくさんとれて嬉しかった。電子レンジで作ったポテトチップスもおいしかった。
- 水やりをしてくれた学校応援団の皆さん、ありがとうございました。

### 【課題】

- 「ふき農園」まで片道歩いて10分ぐらいかかるため、1時間単位で行くのが難しい。草取りや水やりを少しでも多くできるように、時間割を調整する必要がある。
- 学校応援団の方々も高齢化しているので、PTAの保護者の皆様にもご協力いただけるような工夫が必要である。

【3年生 大根の栽培・収穫】



【4年生 ジャガイモの栽培・収穫・調理】



【4年生 小松菜の栽培】



【4年生 「みどりの小道」環境日記の取り組み・校内緑化活動】



学校名	上小岩第二小学校	対象学年と人数	1年生 53名、2年生 50名 5年生 53名、6年生 68名
活動名	上二小 環境計画 2023		
指導者	学内指導者: 土田有子 小幡秀美 清水美緒 栗崎純一 品田哲明 竹内麻美 小林健太 大平哲郎 学外支援者: エコセンター中嶋 美南子先生 元校長 小山 信明 先生		


※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

- 自然空間を利用して、身近な動植物と触れ合い、都市における生物多様性の大切さを体感し、自然への関心を高める。
- 野菜づくりの大変さを知ることで、食べ物への愛着を育て、食事に対する意識を変える。
- 植物の花のつくりや実のでき方に興味をもち、見いだした課題を追求する。
- 環境問題に対する日本や世界の实態・取り組みを調べる活動を通して、自分たちの学校で自分たちでできることはないかを考える。

## 成果

- 「秋を探そう」
  - ・校庭や江戸川の土手の生き物に慣れ親しみ、遊びを通して、自然に対する関心を高めることができた。
- 「上二やさいを育てよう」
  - ・野菜作りについて調べたことで、自分たちの食べている食べ物にはたくさんの苦勞や工夫があることに気が付くことができた。2年生の給食の残菜率は、ほとんど毎日0%が当たり前になった。
- 「受けつがれる生命 花から実へ」
  - ・活動を通して、花の役割や受粉と実との関係をとらえるとともに、生命を尊重し、生命の連続性についての考えをもつことができた。植物だけでなく他の自然で見られるものも観察したいという意欲が高まった。
- 「上二小SDGsをつくろう」
  - ・学校の中にあるSDGsを考えることによって、環境問題を身近に感じる事ができた。また、自分たちの考えたSDGsを下級生に伝える活動を行い、意欲が高まった。

## 感想・課題等

- 「秋を探そう」
 

江戸川の河川敷は学校から近いので、この豊かな自然を今後も学習活動に取り入れて、環境に対する意識や見る目を養い続けたい。
- 「上二やさいを育てよう」
 

野菜づくりを通してさらに野菜好きになった。食べ物を大切に作る心、感謝する気持ちをこれからも育てていきたい。
- 「受けつがれる生命 花から実へ」
 

微生物やその他の生き物などの観察や、他学年での学習にも大いに役に立つと思った。
- 「上二小SDGsをつくろう」
 

環境問題の学習後に上二小SDGsを考えたので、内容がより具体的になった。グループ活動を通して、多面的・多角的に考えられるようになった。



「秋をさがそう（校庭・江戸川河川敷）」



えのころぐさの遊びを楽しみました。



江戸川河川敷には  
センダングサがたくさんありました。



「観察した後は逃がしてあげよう。」

「上ニ野菜をつくろう」



野菜づくりのコツを教えてくださいました。



野菜がよりおいしく感じて、残さなくなりました。

「受けつがれる生命 花から実へ」



タブレットに付ける顕微鏡を使って花粉などを観察。







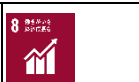











「上ニ小 SDGs をつくろう」



学校のできることを考えて伝えました。

学校名	上一色南小学校	対象学年と人数	6年生 68名
活動名	SDGsについて考えよう～もったいないをほっとかない～		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：江戸川区立中央図書館		

※該当するSDGsの項目に「O」を記入

## 目標

- SDGsについて学び、実践することが、将来の自分たちや地球を救うことに関係していることを学び取る。
- 「気づき・考え・行動する」を心構えとして、自分たちにできることから実践する。

## 成果

- SDGsの17の目標のうち、自分たちにできる目標を見付け、身近なところに解決の糸口があることに気付いた。
- 5Rについて実践できることを具体的に探し出し、学校のみならず家族に知ってもらうために、学習発表会で周知することができた。
- 中央図書館に協力していただき、SDGsに関する本を借り、学校図書館に児童らが考案したSDGsコーナーを作ったり、お昼の放送でコーナーを設けたり、ポスターを作ったりすることができた。

## 感想・課題等

- SDGsの概要をつかみ、自分たちにもできる身近な目標を探し出し、「もったいないをほっとかない」という合言葉で探究活動をするのは、有意義な学習だった。
- お昼の放送「SDGsコーナー」で、SDGsに関するインタビューを紹介したり、学校図書館に設けた「SDGsの本紹介コーナー」でPRしたり、ポスターを作りチームズで配布したりするなど、自分たちの取り組みを積極的に宣伝することができた。
- SDGsについて学び合うことで、地球や人の未来について、他人事ではなく、自分のこととして考え、行動するきっかけとなった児童が確実に増えた。3Rや5R、エシカル、サステナブルなどの専門用語、そして「もったいない」という言葉が、ふだんの会話の中に当たり前のように出てくるようになったのは、大きな成長であると感じている。
- 一過性のイベントとして終わるのではなく、みんなに呼びかけたことを自分たちが実践することはもちろん、みんなが当たり前のように継続して活動できる、サステナブルなシステムとして引き継がれていくようにしていくことが課題である。

SDGs 17の目標について調査



学習発表会に向けて打ち合わせ



SDGs本の紹介コーナー・お昼のSDGs放送



Formsを使ったアンケート調査・SDGsポスター



学校名	南小岩小学校	対象学年と人数	みつばち学級 30名
活動名	「フラワーロードを花いっぱいにしよう」		
指導者	学内指導者：原 敏雄 寺下 敦子 河村 俊博 小島 奈々 松原 あられ		


※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

○フラワーロードの花壇整備に参加し、多様な花を植えたり、生活単元の時間を中心に、花壇整備の方法について考えたりする活動をとおして、環境美化の意識を高める。

○花壇整備を体験することによって、植物等に関する興味・関心を高める。

## 成果

○花壇が整備されたことで、よりよい環境をつくることができた。

○たくさんの種類の花を植えたことで、植物の種類や世話の仕方についての知識が増えた。

## 感想・課題等

### 児童の感想

○花を植えるのを一生懸命できた。力を合わせてできた。

○花を植えるのを2回もがんばった。

### 課題

○児童が主体的に学ぶ機会を増やしていく。

○花に対する興味・関心が高まったので、今後、自然について学ぶ機会を設定する。

○日々の授業において、タブレット端末等を活用した観察や撮影を行っていく。

○活動の様子

花壇整備 1 回目



















まとめの様子



2 回目の花壇への花植え



学校名	南小岩第二小学校	対象学年と人数	1～6年 369名
活動名	観察池を活用しよう		
指導者	学内指導者：各担任 学外支援者：パルシステム、学校応援団		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

- 観察池の生き物や米の観察をすすんで行き、身近な自然とふれあい、自然環境を大切にしようとする態度を育てる。
- 調べたいと思ったことを、様々な方法で調べていくことで、自分でできることは何かを考えていこうとする。

## 成果

- 観察池での稲作とバケツ稲での稲作を比較しながら観察し、米を育てることで、食物を作る難しさを実感することができた。(SDGs 2)
- 観察池の微生物を顕微鏡で調べ、iPadを使って調べた微生物についてまとめる中で、小さな池の中に多くの生き物が存在していると感じることができた。(SDGs 4)
- メダカを観察することを通して、生き物を大切に育てようとする心情が高まった。(SDGs 14)

## 感想・課題等

### 【課題】

- 水の管理が難しく、担任や児童だけではなく、用務主事にも管理をしてもらった。
- バケツ稲は、ネットをかぶせていなかったため、スズメなどの被害にあい上手く育たなかった。

### 【感想】

- バケツ稲での稲作は難しかったが、観察池の稲はたくさん育ってくれてよかった。また、無事に収穫できてうれしかった。
- 藻や水草をつついてるメダカに関心をもち、何かを食べているのではないかかと思った。
- 先生や友達と楽しく観察することができてよかった。

5年生の活動の様子を掲載しています。

＜田植え＞お米マイスターの話をよく聞きながら、観察池とバケツに田植えをしました。



＜田植え後＞バケツ稲と比べながら、よく観察していました。



＜育てきた稲＞

スズメ対策として、ネットを張る準備をしています。



＜脱穀＞

鉢とソフトボールで脱穀をしました。



学校名	松江第二中学校	対象学年と人数	全校生徒
活動名	エコキャップ運動 道路クリーンアッププロジェクト 花壇づくり		
指導者	学内指導者：松井みのり 恒藤峻 森涼太郎		

								
		 ○		 ○	 ○			

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

- 【エコキャップ運動】ペットボトルキャップを回収し、再利用することでプラスチックごみの削減につなげる。  
【道路グリーンアッププロジェクト】落ち葉を掃いて、街を綺麗にし、住みやすい環境を整える。  
【花壇整備】学校の緑を増やし、緑化活動への意識を高める。

## 成果

- 【エコキャップ運動】
- キャップを 80 キロ以上集めることができ、廃棄されるキャップを減らすことに成功した。
- 【道路クリーンアッププロジェクト】
- 道路の落ち葉を掃いてきれいにすることで、地域の人からの信頼を得、気持ち良く道路を歩けるようになった。
  - また生徒たちが楽しく活動していて、掃除に対して意欲的になり、意識が変わったと考えられる。
- 【花壇整備】
- ボランティアをする人はあまり集まらなかったものの、実際に植物にふれ緑化活動を行うことで、いろいろな事を教わり、貴重な経験ができ、この活動に対する意識が大きく変わった。
  - この活動の良さが多くの人に伝われば多くの生徒が協力してくれると思う。

## 感想・課題等

- 【エコキャップ運動】
- 協力してキャップを集めることにより、学校全体の環境を保全する意欲が高まり、協力して活動することの楽しさも体感することができていて良い経験になったと思う。
  - クラス対抗のため、周りの意欲から刺激し合うようになり、意欲が高い人に影響され、たくさんの方が高い意欲を持って活動に参加することができていたので、今後の活動にも活かして行きたい。
  - キャップ集めという身近な活動なため、SDGs 活動の入り口となっていたので今後も SDGs の学習の入り口となるよう続けて行きたい。
  - ビニール袋が破れてしまうことがあったため、ビニール袋の強化を検討したい。
  - どのビニール袋がどのクラスのものか分からなくなってしまうことがあったため、分かりやすいように整理したい。
  - ビニール袋からキャップ専用袋にキャップを移すことに時間がかかり、効率が悪かったため、改善案を検討したい。
- 【道路クリーンアッププロジェクト】
- 自らイチョウの清掃をすることで街路樹や街路樹の管理について興味を持つことに繋げることができたので、良い活動ができた。
  - 3 学年が協力して行うことで学校全体の交流を深める良い機会となったので良かった。
  - 道路清掃を通して、普段清掃してくださっている方々の大変さを知ることができ、積極的に活動に参加することの重要性を知ることができ、より積極的に道路清掃をしようという気持ちを持って活動できた。
  - 呼びかけが足りず、満遍なく生徒をバラけさせることができなかつたり、ちりとりが1つの場所にいくつも集中してしまったため、呼びかけを積極的に行っていきたい。
  - 新しいビニール袋を何枚も使ってしまった場面があったので、SDGs のためにも、なるべく1つの袋に押し込んで沢山の量を入れられるようにしたい。
  - 参加人数が少ないクラスもあったので、改善案を検討したい。



### 【花壇整備】

- 地域の学校応援団の方々や、園芸ボランティア部の皆さんと活動することで、あまり話す機会が無かった方との交流を深めることができたので、地域の方々など、たくさんの方との交流の場を増やしていきたい。
- 学校応援団の方々に花の種類などを教えていただき、花についての興味が深めながら活動に臨むことができた。
- ボランティアの人数が少なかったため、参加人数が増えるように対策したい。
- 学校応援団の方々との会話が少なかったため、積極的に会話ができるような雰囲気作りに取り組んでいきたい。

## 活動報告（活動写真）

学校名 松江第二中学校

## 今年度の活動

### 【エコキャップ運動】



↑ 集めたキャップの一部



↑ 集めたキャップを運ぶ様子

### 【道路クリーンアッププロジェクト】



↑ 広がって道路をはいている様子



↑ 集めた葉っぱの一部

### 【花壇整備】



↑ 花壇に植えた沢山の花の様子



↑ 植えた花の一種

学校名	松江第五中学校	対象学年と人数	全学年 30 人
活動名	ウェルカムガーデン植栽		
指導者	学内指導者： 富永 真由 吉川 硯人		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

来校する生徒や保護者、地域の皆さんをお花で気持ちよく学校に来てもらう。

## 成果

- ・生徒会の呼びかけでボランティアが集まり、花の種類や色合いを考えて植栽活動を行った。
- ・植栽後、昼休みに水やりを行い、花が長持ちした。
- ・学校への訪問者や通りがかった地域の人が足をとめて花を見てくれていた。
- ・HPで活動を載せ保護者、地域にも周知することができた。

## 感想・課題等

- ・年に2回程度の植栽活動を行っているが、生徒会のメンバーが呼びかけ毎回ボランティアが集まっている。花の種類はおおよそ8種類程度選び購入している。色合いや背の高さを考え、どのように植えるときれいに見えるか相談しながら植えている。卒業生も参加し、卒業後も地域に貢献する活動が続けられるとよい。集まった生徒は雑草の処理など力のいる作業も黙々と行っていた。きれいに整えられた花壇を見て満足していた。自分たちの活動が人や地域に貢献できたという達成感を得ることができた。
- ・今年度は暑い日が続いたが、生徒会が献身的に水やりをすることで花の元気が保たれた。責任をもって管理し、景観を長続きさせようという気持ちを育てられた。これまでは学期始めに合わせて植栽したが、今後は気候等を考慮し植栽の時期をずらすことも考えている。
- ・今年度は1月の学期始めと3月の卒業式前に植栽を予定している。
- ・環境学習推進のモデル校として、生徒会の活動を中心に多くの生徒たちが環境について考え自ら関わっていけるように、活動を計画し実践していきたい。また、植栽をきっかけにその他の環境問題改善にも目をむけられるよう生徒の育成を行っていきたい。



膨大な草むしりから



今年卒業した生徒会長も来てくれました



カ仕事も率先して



構成を考えながら



予定の合間を縫って参加した人もいます



校門



生徒会とボランティア



完成した花壇

学校名	南葛西中学校	対象学年と人数	全学年から希望者39名参加
活動名	ゴーヤのグリーンカーテン		
指導者	学内指導者：山本教諭、松尾教諭、阿部教諭		


※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

- ボランティア精神を大切にしながら、生徒の健全育成を図り、社会貢献の精神を培う。
- ゴーヤを使ったグリーンカーテンで、教室に入る日光を減らし、節電をしながら過ごしやすい教室環境をつくる。
- ゴーヤを使ったグリーンカーテンづくりを通して、SDGsについて学びながら、自分たちができる持続可能な社会への貢献する意識を養う。

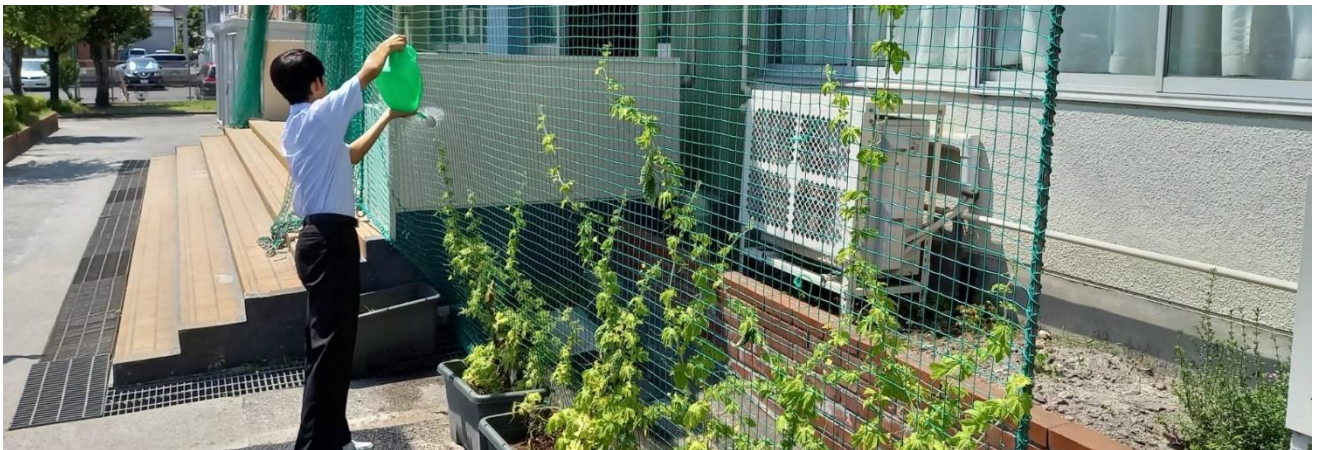
## 成果

- 当初募集した人数より多くのボランティア希望者が集まった。SDGsやゴーヤを使ったグリーンカーテンへの興味・関心が高いことがうかがえた。実際に生徒の昇降口周辺や教室の外に、プランターを置いたので、全校生徒がゴーヤの成長を日々、見ながら興味をもってもらえることができた。
- 参加生徒は、プランターに敷石と土を入れ、その後苗を植える作業を楽しそうに一生懸命取り組むことができた。生物育成にも興味をもちながら、学校からできるSDGsへの取り組みを学ぶことができた。
- 参加生徒は、収穫したゴーヤをもちかえり、食べることも経験し、持続可能な農業についても学ぶことができた。
- ゴーヤのグリーンカーテンは、室温を $-5^{\circ}$ 程度下げられるという成果も出ていることを生徒に伝えたところ、食料をただつくるのではなく、農業と環境問題が繋がっていることを知り、よりSDGsについて興味をもって学ぶことができた。

## 感想・課題等

- ボランティア活動の一環として取り組んだので、ボランティア参加者をきっかけに全校生徒に興味をもらい、今後も継続するきっかけとしてはとても良かったと思う。地球温暖化という身近な問題に対して中学校の理科、技術・家庭科などの日々の授業で学んだことを活かして取り組めたことが良かった。
- 初年度だったので、プランターや土などの費用がかかり、グリーンカーテンとしては一部分しかできなかった。また、プランターでのゴーヤを育成することの難しさを感じた。また、ゴーヤの品種が、葉が小さなものだったので、カーテンとしては物足りなかった。
- グリーンカーテンを通してSDGsについてのきっかけになったが、体験できる生徒が限られてしまった。

水やりの様子。



肥料をあげながら成長を促す様子。



グリーンカーテンができながら、ゴーヤもすくすく育っている様子。





---

発行：認定特定非営利活動法人えどがわエコセンター

---

〒134-0091 東京都江戸川区船堀 4-1-1 タワーホール船堀 3 階

TEL: 03-5659-1651 FAX: 03-5659-1677

URL: <http://www.edogawa-ecocenter.jp/>

---